

今後の木材産業や木材利用 のあり方について

平成23年3月
林野庁

目 次

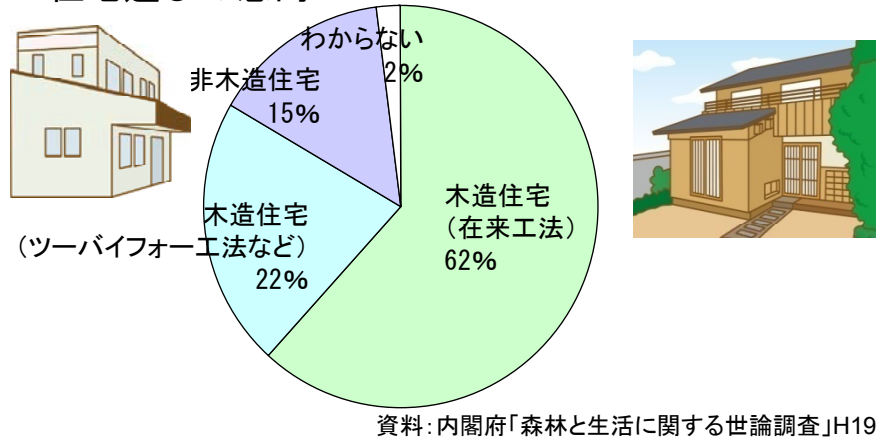
1-1	需要者ニーズへの対応	1
1-2	変わる住宅様式と部材	2
1-3	集成材・乾燥材・プレカット	3
1-4	合板	4
2	国産材の加工・流通体制の構築	5
3-1	競争力の高い加工体制の整備	6
3-2	大規模型（単独タイプ・水平連携タイプ）	7
3-3	垂直連携型（顔の見える木材での家づくり）	8
3-4	住宅等の部材開発と土木資材等新たな用途の開拓	9
4-1	国産材の安定供給に向けて克服すべき課題	10
4-2	素材生産事業者の育成・強化	11
4-3	事例（素材流通コーディネーター）	12
4-4	事例（中間土場）	13
4-5	事例（集出荷施設）	14
4-6	製材・合板工場の立地（沿岸から内陸へ）	15

5-1	公共建築物への木材利用の促進（1）	16
5-2	公共建築物への木材利用の促進（2）	17
5-3	公共建築物への木材利用の促進（3）	18
5-4	公共建築物への木材利用の促進（4）	19
6-1	木質バイオマスの総合利用（1）	20
6-2	木質バイオマスの総合利用（2）	21
6-3	木質バイオマスの総合利用（3）	22
7	木材輸出	23
8	消費者等の理解の醸成	24
9	違法伐採対策の推進	25
10-1	木材利用の事例（1）	26
10-2	木材利用の事例（2）	27

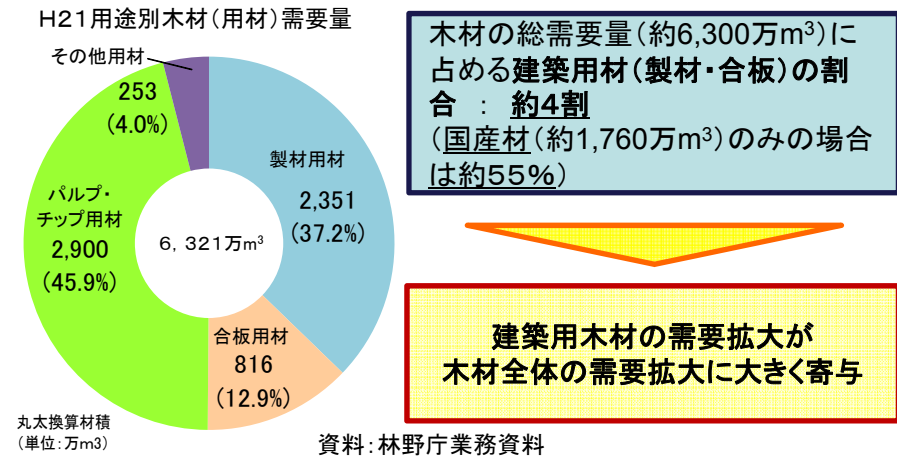
1-1 需要者ニーズへの対応

- ・平成19年世論調査によると、84%が「木造住宅を選びたい」と回答。
- ・国内の新設住宅の5割強は木造であり、住宅建築の動向は木材需要に大きく影響。木材利用の拡大に向け、木造技術の標準化、木造住宅建築の担い手の育成などを図りつつ、地域材住宅を推進していく必要。

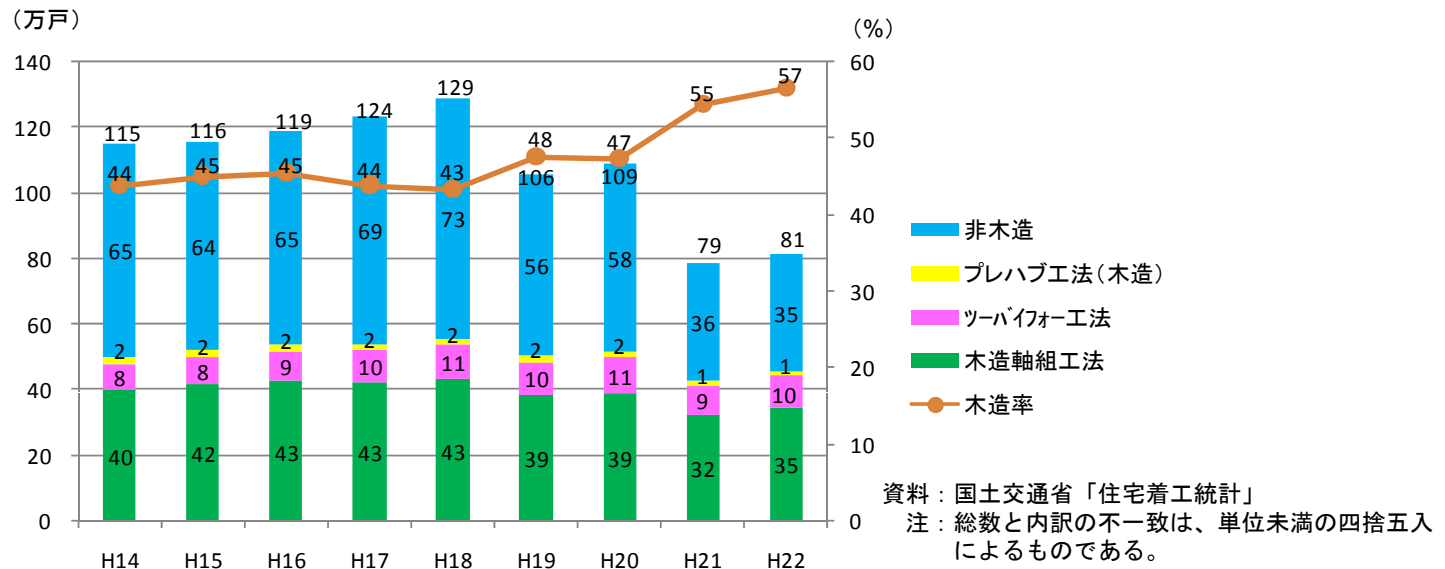
■ 住宅選びの意向



■ 木材需要に占める建築用材の位置付け



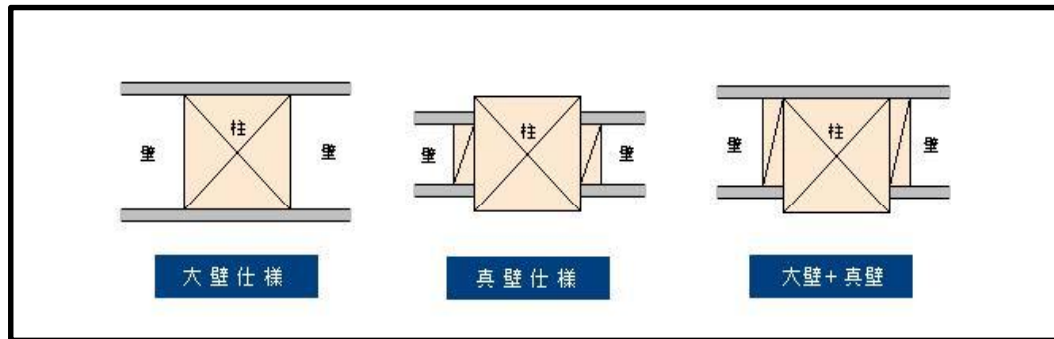
■ 工法別の新設住宅着工戸数と木造率の推移



1-2 変わる住宅様式と部材

・大壁仕様の住宅の増加など様式の変化などにより、木材製品に対しては、品質、性能、量のまとまりなどが強く求められるようになってきたが、国産材製品はこれに応えることが出来ず、外材にシェアを奪われてきた。

○ 真壁から大壁工法へ



真壁仕様

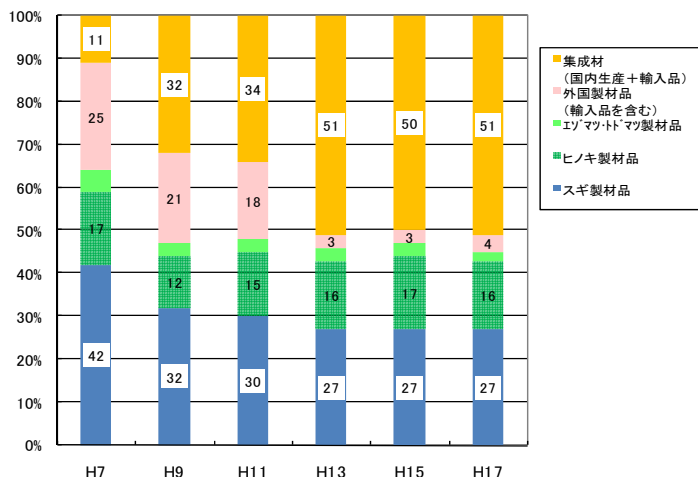


大壁仕様

1-3 集成材・乾燥材・プレカット

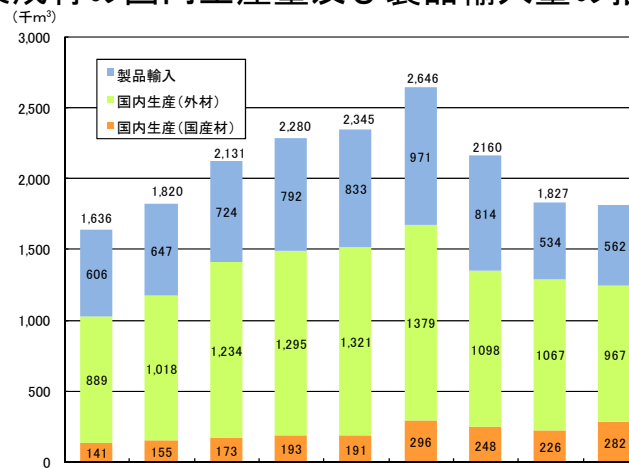
- ・構造材における集成材のシェアは拡大傾向（柱材におけるシェアは5割）。また、集成材の国内生産量及び輸入量は減少傾向にある中、国産材の使用割合は増加傾向。
- ・プレカット加工の進展（在来工法住宅のうちプレカット材を使用した住宅はH21で86%）等を契機として、**品質・性能の明確な木材へのニーズが増大しており、これに応えた製品の安定的な供給が重要。**

○在来工法における柱材の樹種別使用割合



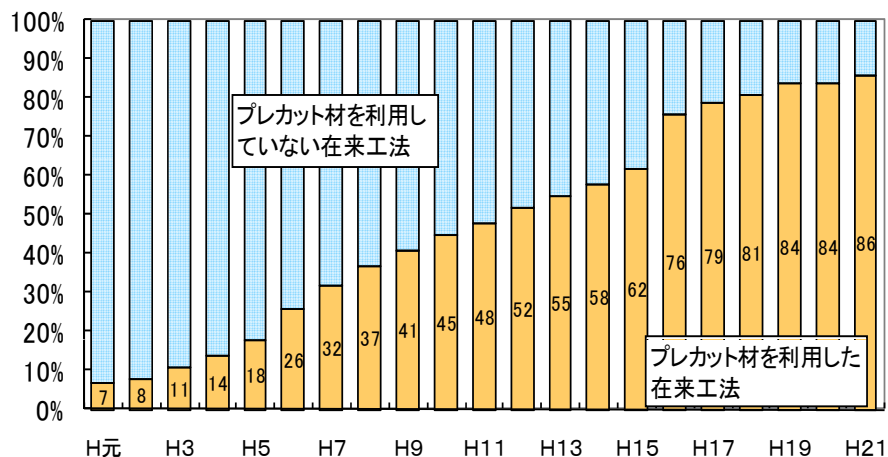
資料：（財）日本住宅・木材技術センター
「木材需給と木材工業の現況」

○集成材の国内生産量及び製品輸入量の推移



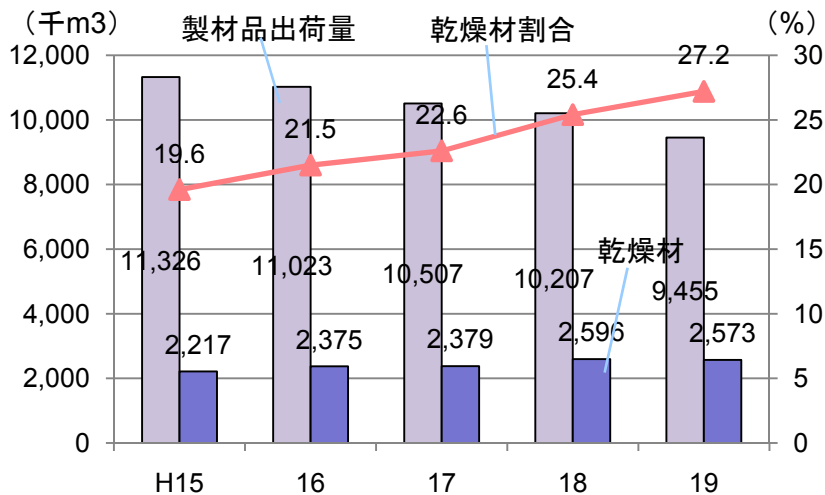
資料：財務省「貿易統計」、日本集成材工業協同組合調べ
注：国産材については、日本集成材工業協同組合調べから林野庁で推計。

○プレカット材を利用した在来工法住宅シェアの推移



資料：全国木造住宅機械プレカット協会調べ

○ 建築用製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合

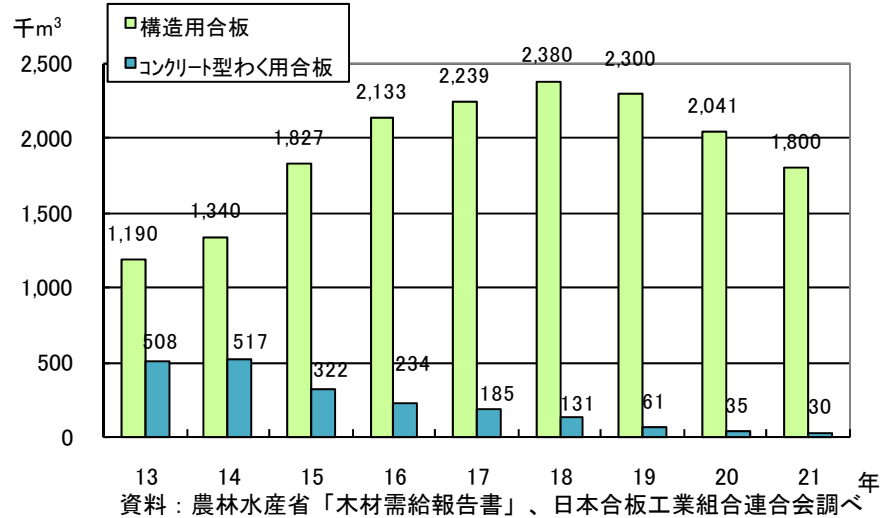


資料：林野庁業務資料

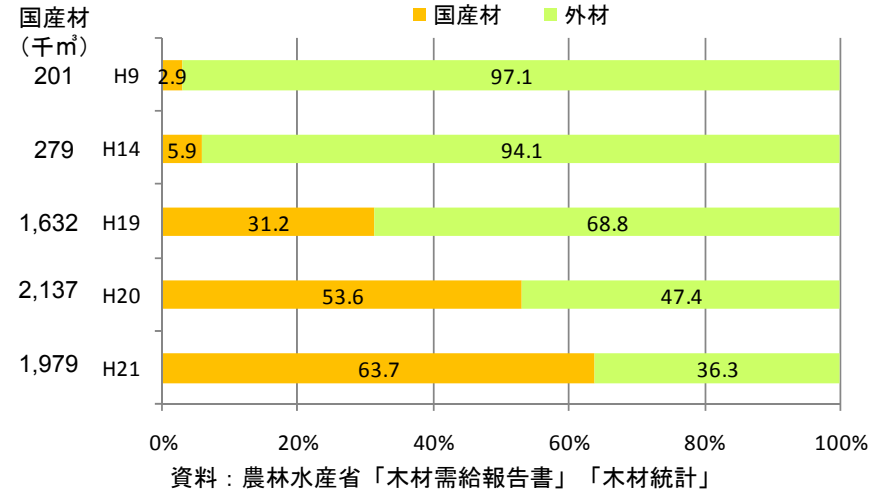
1-4 合板

- ・構造用合板は、住宅資材としての施工性に優れていることなどから生産量は増加傾向。従来の板材に替わり合板利用が増加するなど建築部材の利用形態も変化。
- ・合板用素材は、スギ・カラマツを中心として国産材のシェアが急増。

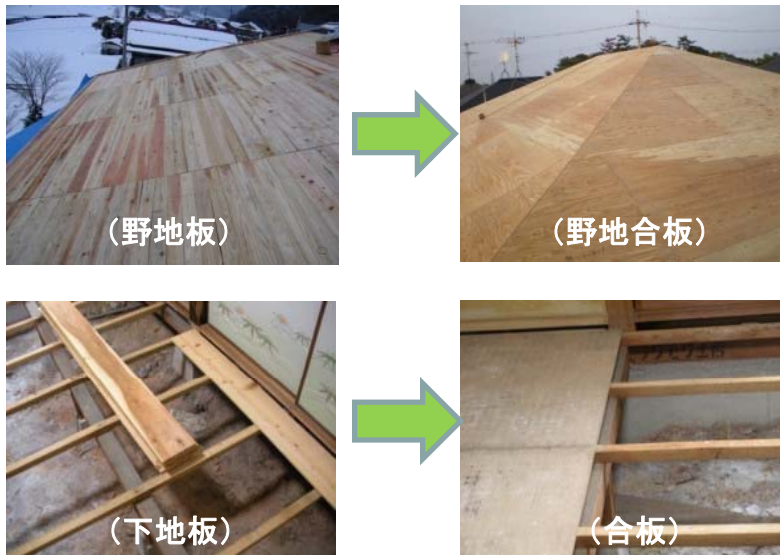
○用途別の合板製造量の推移



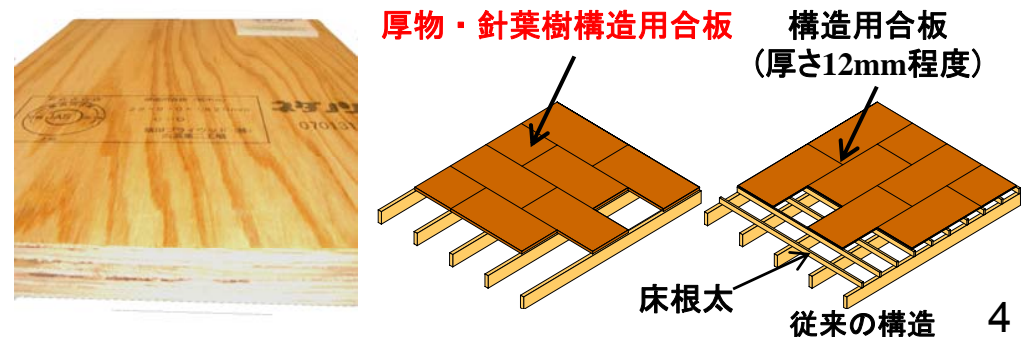
○合板用素材の国産材と外材の比率



○伸びる合板の利用



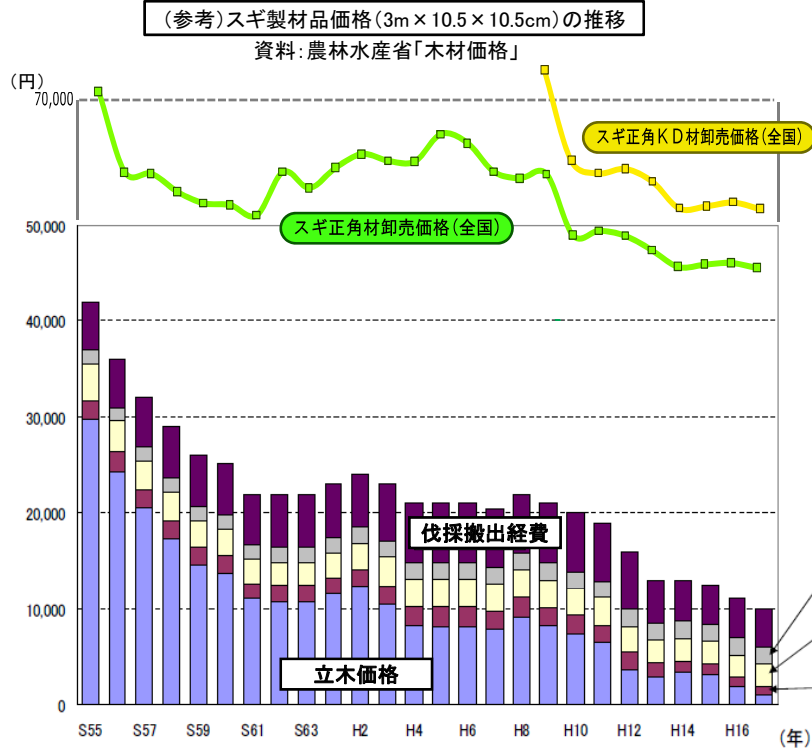
- ・厚物・針葉樹構造用合板
東京・東北合板工業組合の加盟企業が共同で開発した、厚さ24mm、28mm、28mm以上のJAS構造用合板。
強度が高く、在来軸組工法の床に使用する場合に根太の施工が不要であり、耐震性が向上する。
最近では、厚物・針葉樹構造用合板を用いた床構面の45分準耐火構造仕様や、壁倍率5.0倍の高倍率耐力壁仕様で国土交通大臣認定を取得し、用途が拡大している。



2 国産材の加工・流通体制の構築

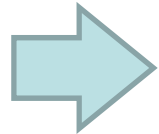
・ロットの拡大、加工施設の大型化、流通の合理化等によるトータルコストの低減を図ることにより、その利益を森林に再投資することが可能な、国産材の加工・流通体制の構築が喫緊の課題

○ スギ丸太価格に占める諸経費の内訳と立木価格の推移



減少著しい山元還元額(立木価格)

資料:「山を豊かにする木材の売り方」(遠藤日雄教授編著)
注:大分県日田市在住森林所有者のスギ45年生データ使用

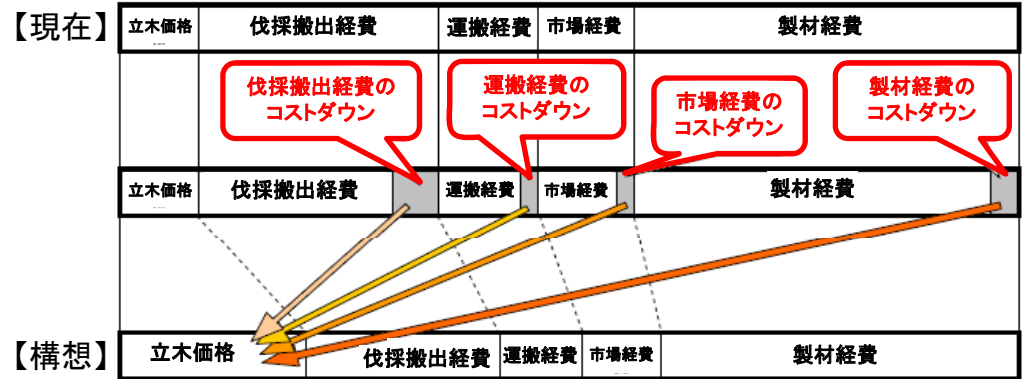


H22立木価格(円/m ³)	
スギ	2,654
ヒノキ	8,128

(資料:日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調査」)

○ 山元への利益還元

《製材品価格に占める各段階の経費》



各段階でのコストダウンの中から山元へ還元

持続的な森林整備・木材生産の推進